

# 企画展「古代へのとびら2019」

とっておきの埋文講座① ～富山県の旧石器時代から近代までの歴史を発掘出土品から学ぶ～

## はじめに

今年の春の企画展「古代へのとびら2019～富山県の旧石器時代から近代までの歴史を発掘出土品から学ぶ～」では、初めて歴史を学習する子どもたちが興味をもって楽しく歴史に親しんでもらう展示というコンセプトで企画しました。

企画するにあたって、ポイントの一つは、「教科書で学ぶ歴史の学習を補助する内容であること」です。今回の展示では、旧石器時代から近代までを時代を追って展示しています。当時の人々の生活の様子がイメージできるように、時代ごとのイラストのパネルも掲示しました。

今回の企画展の目玉の展示は「重層遺跡コーナー」です。発見される遺跡の多くは、いくつかの時代の遺物が積み重なって発見されます。今回は、舟橋村<sup>ふなはしむら</sup>仏生寺城跡<sup>ぶっしょうじじょうあと</sup>の出土品を使って、古いものから順に下から積み重なっている様子を立体的に分かりやすく展示してい

ます。扉をあけるとそれぞれの時代の土器や石器が見られます。ぜひ、企画展に来て、扉を開けて見てくださいね。



チラシの裏面には、クイズが出題されています。それぞれの時代の展示物を見ながら丸の中にひらがなを入れ、順に解いていきます。最後に赤丸に入ったひらがなを組み合わせることでキーワードにたどり着けます。みなさん、ぜひクイズに挑戦してくださいね。では、今回の展示品を紹介していきましょう。



## 旧石器時代

富山市直坂I遺跡<sup>すくさか</sup>の富山県指定有形文化財の石器を展示しています。数十点の剥片（石を加工する時にできた石くず）から元の石の形を復元することができた「接合資料」を展示しています。





この「接合資料」から、石器の作り方がわかります。直坂I遺跡の石器の作り方は、「石刃技法」と呼ばれています。

## 縄文時代

富山市布尻遺跡の出土品を展示しています。この遺跡は、縄文時代早期から晩期まですべての時期の土器が出土している珍しい遺跡です。早期から順番に見ていくと大きさ、形、模様がいろいろ違っていることがわかります。石器は打製石斧、磨製石斧、石皿、叩石など多数見つかっています。さらに、ヒスイのペンダントや石刀が見つかっています。ヒスイは宮崎海岸で、石刀は飛騨地域で産出された石でつくられたものです。このことから、この布尻遺跡が大規模でいろいろな地方とも交流があった有力な集落であったことが分かります。

## 弥生時代

射水市愛宕遺跡の出土品を展示しています。溝跡や井戸跡からいろいろな遺物が見つかり、鏡の破片や木製の高杯など貴重なものも発見されています。アクセサリーとして使われた管玉やまが玉、それらの形を整える石も見つかっていて、集落で玉作りが行われていたことがわかっています。また、ほとんど模様のない弥生土器の中でも珍しい、表面に線で模様を描いた



線刻土器を展示しています。

## 古墳時代

氷見市加納南古墳群、滑川市上梅沢遺跡の出土品を展示しています。加納南古墳群の9号墳からは鉄製の武器とよろい、その隣の10号墳からはアクセサリーの管玉やガラス玉がたくさん出土しました。地域の有力者と、有力者と関連する人のお墓だったのかもしれないと考えられています。今回は、9号墳からは県内で初めて出土した筒型器台を、10号墳からはガラス玉や管玉などのアクセサリー類、鏡を展示しています。



## 古代

射水市北高木遺跡、魚津市仏田遺跡の出土品を展示しています。北高木遺跡からは、布などの織物に模様を染め付ける時に使う道具の版木が出土しています。今でも洋服を染めることができますが、古代にもこうした染色の技術があったことを伝えています。また、須恵器や土師器などの土器に墨で人の名前や地名が書かれている墨書土器や人の顔が描かれている人面墨書土器も展示しています。

## 中世・近世

中世は高岡市開群大滝遺跡、近世は高岡市江尻遺跡の出土品を展示しています。中世コーナーは、中世の遺跡から多く出土する、漆器や石臼を展示しています。近世コーナーはいろいろな焼き物を展示しています。

## 近代

旧県会議事堂跡の煉瓦や、ガラス瓶、小銃の玉などを展示しています。これらは長い歴史の中では最近のものですが、これらのものも歴史を伝えていく文化財です。また、パネルでは明治、大正、昭和の富山の歴史を紹介しています。



## おわりに

展示を始めてから、多くの子どもたちが来館しています。また、子どもたちとともに、初めて当センターに足を運ばれる保護者の方もいらっしゃいます。富山県内に数多くの遺跡や出土品があることを知っていただくことはとてもうれしいことです。

展示をきっかけとして、とやまの歴史をより身近に感じていただくことができれば幸いです。ぜひ、当センターへ足をお運びいただき、数多くの出土品をご覧になってください。

(米田 大介)